

## 2016 年度聖書の集い（第 3 回）

2016 年 7 月 13 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannnari.com/>

古本 靖久

1、聖歌 374 番 「心の扉をひらくと」

2、お祈り

3、聖書 テサロニケの信徒への手紙一 5:16-28（新約聖書 379 ページ）

4、今日の内容

心に留めたい聖書のことば

「③ いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」

今月の聖書の言葉は、「喜び、祈り、感謝しなさい」ということです。この言葉はキリスト教が始まったころの教会に宛てて書かれた手紙の中にある言葉です。周りの人たちに迫害されながらも信仰を深めていった人々を励ますこの手紙は、今のわたしたちにとってどのような意味を持つのでしょうか。

### ① いつも喜んでいなさい

このように言われて、「よし、そうしよう」と素直に喜ぶことができる人は、いったいどれくらいおられるのでしょうか。喜びなさいと命令されても、そのような気持ちになれるときとなれないときがあります。

泣きたいとき、苦しいとき、辛いとき。人間にはそのようなときがあって当然です。笑顔でいたいのは山々だけれども、どうしてもそうできない。聖書はそのようなときにも、「笑顔を周りに振りまけ」と命じられているのでしょうか。

しかしわたしたちは同時に、いつも笑顔でいてくれる人がとなりにいたら、自分の顔もほころんでくることを知っています。その笑顔によって、自分の心が癒されることをよく知っているのですね。

悲しんでいるときに、子どもの笑顔に励まされたことはありませんか。涙を流しながら、「この子がそばにいてくれてよかった」と心から感じたことはありませんか。

## ② 絶えず祈りなさい

ではどうすれば、わたしたちはいつも笑顔でいられるのでしょうか。喜びを表情であらわすことで、周りの人にもよい影響を与えることができることはよく分かっています。でもなかなか笑顔になれないこともあります。

そのように、本当は笑顔でいられないような状況で表面上だけニコニコすることは、とても辛いことです。人前ではなんとかにこやかにしていても、家に帰ると仮面を脱ぎ捨てるように無表情になってしまう。そしてとても疲れてしまう。そのようなことはありませんか。

わたしも人前で常に「ニコニコ」としていることは、あまり得意ではありません。時折気を抜いて、放心状態になり、その顔を「怖い」と指摘されることもあります。でもできる限り笑顔でいたいと努力しているつもりです。

そのためにわたしは「お祈り」をいつもするようにしています。お祈りといっても礼拝堂でかしまってするだけではなく、何気ない瞬間に「神さま、ありがとう」、「神さま、ごめんなさい」と心の中で会話をするのです。そのときに言葉では言い表せない安心感が生まれ、自然と顔がほころんでいくのです。

## ③ どんなことにも感謝しなさい

しかしお祈りなんて、という方も多いと思います。そのときは、対象を神さまではなく、自分の信じているものであったり、身近な人、いろいろなものに置き換えて、実際に会話をしたり、心の中で思いを届けたりしてはどうでしょうか。昔から日本人は、八百万の神と言って周りにあるたくさんのものを崇拝して暮らしてきました。

そして伝えることは、「ありがとう」ということです。神さまにありがとう。子どもたちにありがとう。お連れ合いさんにありがとう。

ありがとうを言っているときの、ご自分の表情を想像してみてください。ありがとうを言う子どもたちはどうですか。また子どもたちにありがとうと言われたら、みなさんの顔はどうなるでしょう。そこには喜びがあふれ、優しい空間が広がっていくのではないのでしょうか。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）： 毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝： 毎週日曜日 午前 10 時 30 分から